震災時の透析医療尽力

福島医大の「一杉会」

日本泌尿器科学会賞に

伊達智徳会長

福島医大医学部泌尿器科学講座の同門会「一杉会（いっさんかい）」は、東日本大震災と東京電力福島第1原発事故から10年間にわたる会員らの透析医療などの取り組みが評価され、第9回日本泌尿器科学会医療賞に輝いた。

一杉会は、福島医大の泌尿器科学講座で学んだ医師約100人が所属している。震災時には、原発事故に伴う避難や病院設備の損壊などで現場が混乱する中、会員のネットワークを生かし、救急診療や避難所への往診、透析患者の受け入れなどを協力して行った。また、泌尿器科医の人材確保のため、教育活動の充実に取り組んだ。学会医療賞は、泌尿器科医療の領域で健康増進や福祉の向上に顕著な貢献を果たした個人や団体をたたえるもの。

一杉会の伊達智徳会長（元公立藤田総合病院副院長）は「大変な状況の中、会員が寝食を忘れて深夜まで透析医療を行った。震災10年でこうした活動を評価してもらった」と語った。